

ほん・本・ブック (修練会)

公益財団法人豊島修練会 2016年4月27日 (通算第6号)

子どものほん (子ども、小学生&中学生)

ジェンマ・エルマン・ハリス編 西田美緒子訳 タイマタカシ絵「世界一ときめく質問、宇宙一やさしい答え—世界の第一人者は子どもの質問にこう答える」

河出書房新社 本体 2500円

まえがきに「子どもからの質問に、大人は冗談や適当な答えでごまかし、その場をやり過ごすことが多い」とある。全く、その通りである。なぜなら、素朴で簡単な質問ほど、実はその意味を子どもに説明することは難しいからである。孫に訊かれて、結構いい答えをした筈なのに「結局、ジージもよくは知らないということね」ということがよくある。



例えば、第1問は「宇宙には行き止まりがある？」と質問されて、これに素粒子物理学者が、「それは重大な問題だ。でもその答えは、…」と回答している。第2問は、「サルはこれからヒトになっていくの？」と質問し、動物学者&植物学者が、「……。森の中に猿の食べ物がたっぷりあって、森もサルたちが暮らせるだけの十分な広さを保っているなら、サルはずっとサルのままにいるにちがいない」と答えている。「意地悪な人にも優しくしなくちゃいけないの？」等131もの質問と、その道の第一人者による分かり易い答えが紹介されている。子どもが読んでも、読み聞かせても、大人が読んでも、発見の沢山ある楽しい本である。

大人の本 (パパ&ママ、ジジ&ババなど)

藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く」

角川 ONE テーマ 21 本体 781円



都会暮らしは確かに便利だが、本当に幸せなのか。経済的に豊かでもなく生活が近代化していないのに、国民が世界一幸せだと感じているブータンのような国もある。日本にだって昔ながらの住み心地の良い暮らしがある。というような主旨のまえがきがあり、決して、押し付けるわけではないがといいつつ、広島県などいくつかのモデルの紹介を通して、ゆったりした生活の中の幸せを発信している。今の生活を180度変換できないにしても、生き方、生活の仕方を見つめ直すきっかけになる1冊である。

学校の先生のブック (小学校・中学校の先生)

千々布敏弥監修・福井らしさを探る会編著「県外から来た教師だからわかった福井県の教育力」

GAKKEN 本体 1500円

福井県・秋田県の学力の高さはよく知られている。その要因はどこにあるかを、学校関係者は知りがっている。本書は、県外から1年間、福井県の公立学校に教師として勤務・研修した教師が、実体験を通して「福井県の教育力」の素晴らしさを解明したものである。



本書から「体力も学力もトップ」の神髄を読み取ってほしい。内容は、第1章「しなやかで高め合う協働—福井の教育の良さ」、第2章「しなやかで高め合う協働はいかにしてつくり上げられたか」、第3章「福井の教師の授業づくり—高い学力を育む授業はどこが違う」、第4章「福井の体力向上—学力と同様に体力も伸ばす」、第5章「自然に行われる徹底」、第6章「福井の良さを取り入れるには」、終章「福井県の教師文化は、重要文化財」である。